

## 2025.4.18 義務教育学校への散歩から

昨日、年中組は昼食後に隣の義務教育学校へ散歩に出かけました。

前期課程はまだ給食中。校庭をとことこ歩いていると、1階の1,2年生のみんなが窓越しに声をかけてくれます。「今給食、食べてるよ!」「とってもおいしいよ!」とその表情もとてもいい感じです。

年中児は、校庭で滑り台、ジャングルジムや雲梯、鉄棒などで遊んだり、花を摘んだり、石を集めたりなどそれぞれに遊びを楽しみます。

義務教育学校が昼休みになると、前期課程、後期課程の児童生徒らが校庭で出てきました。サッカーをしたり、草花を集めたり、鬼ごっこをしたりと自分たちのやりたいことをしながら、ゆったりと過ごしています。すると、自然と年中さんと手をつないでくれる後期課程の女子生徒。幼稚園の子と一緒に鬼ごっこを始める後期課程の男子生徒。幼稚園の子にジャングルジムの登り方を教えてくれる前期課程児童。また「これ秘密なんだけど、光る石があるんだ!」と奥へ連れていき、理科で使う石英の石を見せてくれる子。

年中児がみんなどこにいるかわからなくなるぐらい、前期・後期課程の児童生徒と幼稚園の子らが入り混じって遊んでいる姿が見られました。その様子を見ながら、なんて素敵な空間なんだろうとしみじみと感じていました。

附属幼出身の1年生児童が「先生、こっちきて!」と幼稚園教員呼びます。

すると、「先生、これプレゼント!」と藤棚の下に咲いているヒメオドリコソウ?の花を摘み取り、教師に差し出します。そして、他の子もその場で蜜を吸いながら、「幼稚園の時に吸っていたチェリーセージよりもちょっと甘いのがあるよ!でもちょっと苦いのもあるから、気をつけて!それはハズレ!」と1年生。

教師も初めて吸いましたが、たまにとても甘いものにあたります。それにびっくり!そして、「これおいしい!ありがとう!」と伝えると、帰りにはヒメオドリコソウをたくさん摘んできてくれて「幼稚園でみんなで吸って!」とおみやげをくれました。

その様子を見ながら、幼稚園から義務へと場所が変わっても、やはりこれまでの生活を通した経験、感動体験はどこかでつながっていくんだなとても実感しました。この学年は、チェリーセージを始め、義務教育学校のツツジの蜜もたくさん吸った学年、そしてなにより花が好きな子がたくさんいた学年です。だからこそ、ヒメオドリコソウにも魅力を感じ取り、新たな環境の中でも自然と力を発揮していくのでしょうか。それは新しい環境の中でもこれまでの経験をつないで、子供たちが安心して自己発揮できるようにと園校一体となり、スタートカリキュラムを展開しているからこそその姿かもしれません。

児童・生徒らが安心して過ごせているからこそ周囲の環境へ視野を広げ、気付きが生まれてくるのかもしれません。五感を使い、言葉で、あるいは实物を見せながら、その発見を嬉しそうに幼稚園教員に伝えてくる姿は、子供一人一人の世界がどんどん拾空していく姿だなと感じました。

いつ行っても温かく迎えてくれる児童、生徒、そして先生方に心より感謝です!



